

地元の縄文文化を学ぶ

八ヶ岳縄文人の衆が発足

茅野

八ヶ岳山麓に広がる地元の縄文文化を学ぼうと、学習グループ「八ヶ岳縄文人の衆」が発足した。茅野市湖東の小林喜久一代表(56)の呼び掛けに賛同した人たちが、テキスト



輪読会形式で縄文文化を学習する「八ヶ岳縄文人の衆」

を使用した輪読会形式の学習会を月1回開き、縄文文化に理解を深める。

小林代表は茅野市の縄文文化を次世代に引き継ぐ担い手となる人を増やすため、八ヶ岳西麓の遺跡を学ぶ機会にしようとするグループを立ち上げた。学習会は、同市尖石縄文考古館元館長で諏訪考古学研究会長の鵜飼幸雄さん、同市宮川が講師を務め、鵜飼さんの著書「八ヶ岳西麓の縄文文化―二つの国宝土偶と黒曜石の里(敬文社)」をテキストに使用。担当者1人が音読するのを全員で聞き、鵜飼さんの解説を受けて意見を交わす。

第1回学習会は26日夜、ゆいわく茅野で開いた。小林代表、鵜飼さんをはじめ同市内を中心に8人が参加。自己紹介に続き、小林代表がテキストの「はじめに」の部分を読んで参加者で意見交換した。小林代表はあいさつで「学習会を通して理解を深め、鵜飼

飼先生に教えを請い、縄文文化の担い手として次世代にバトンをつなげてほしい」と呼び掛けていた。

学習会は毎月第4金曜の夜にゆいわく茅野で開く。フィールドワーク、講演会なども企画したい考えだ。